

私たちの使命は、

高品質で安全・安心な飼料を

安定的にご提供することです。

昭和36年小樽に、昭和41年釧路に、それぞれホクレン直轄の飼料工場が建設されました。その後、国民の食生活が欧米型に変化したことに伴い、食肉、鶏卵、乳製品の需要が増加したことに応えて、昭和42年、小樽・釧路の飼料工場をホクレンから分離し株式会社として発足したのに続き、昭和43年旭川（平成13年閉鎖、旭川倉庫を新設）、昭和46年苫小牧（小樽閉鎖）にも独立のくみあい飼料株式会社が設立されました。昭和49年8月、合理化のためこれら3会社を合併、現在の「ホクレンくみあい飼料株式会社」に社名変更し新会社の設立となりました。

その後、昭和51年帯広工場、昭和54年北見工場、昭和59年釧路西港工場（旧釧路閉鎖）、平成23年には十勝工場（北見・帯広工場閉鎖）をそれぞれ建設し、系統飼料工場群の整備拡充を図ってまいりました。

この間、品質管理の強化ならびに農林水産省のBSEガイドラインに対応するべく、苫小牧工場敷地内に鶏・豚用飼料工場を建設し、平成17年4月より操業を開始いたしました。これにより、牛用飼料と鶏・豚用飼料は完全に分離された工場で製造され、より安全な飼料を製造できるようになりました。

現在、食の安全に対する消費者の関心が高まる中、平成15年12月に品質管理および品質保証の国際規格であるISO9001を取得し、平成20年から21年にかけては全工場において抗菌剤GMPガイドライン、平成29年には統合GMPガイドラインの認証取得を完了しました。これらの取り組みを通じて、安全・安心に関わる全てのプロセスを明確にし、求められる要求事項を確実に実行することにより、今まで以上に高品質で安全・安心な飼料を安定的にお届けしてまいります。

さらに、平成29年6月、ホクレンと全農との事業連携の強化により、当社は全農の子会社となると同時に、ホクレンの関連会社として新たなスタートを切り、平成29年10月、全農からの配合飼料事業の一部機能の移管を受け、原料仕入から配合設計、製造、品質管理、ホクレン推進支援まで一貫した事業体制を構築しました。

今後とも、JAグループの一員として日本の食糧基地を担う北海道の酪農畜産生産者および日本の消費者の皆様のご要望に応え、北海道の酪農畜産業の発展に寄与するよう努めてまいります。



北海道の酪農・畜産とともに 歩んできました。

■ 概 要

■ 会社名

ホクレンくみあい飼料株式会社

■ 本社所在地

札幌市中央区北 4 条西 1 丁目 1 番地

北農ビル 18 階

TEL (011)222-3301 (代表)

FAX (011)222-3304

■ 工場

釧路西港・苫小牧・十勝

■ 設立

昭和 49 年 8 月 1 日 (合併)

■ 資本金

15 億 2,700 万円

■ 従業員数 (役員除く)

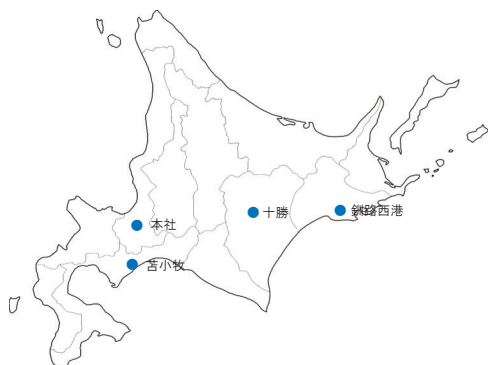
183 名 (令和 3 年 4 月 1 日現在)



■ 沿 革

昭和 42 年 7 月	小樽くみあい飼料株式会社操業
昭和 42 年 7 月	釧路くみあい飼料株式会社操業
昭和 43 年 12 月	旭川くみあい飼料株式会社操業
昭和 46 年 4 月	苫小牧くみあい飼料株式会社操業 (小樽閉鎖)
昭和 49 年 8 月	ホクレンくみあい飼料株式会社設立 (3 社合併)
昭和 51 年 4 月	帯広工場操業
昭和 54 年 10 月	北見工場操業
昭和 59 年 10 月	釧路西港工場操業 (釧路工場閉鎖)
平成 13 年 7 月	旭川倉庫新設 (旭川工場閉鎖)
平成 17 年 4 月	苫小牧工場 鶏・豚用工場操業
平成 23 年 4 月	粗飼料分析センター開設 (北見工場閉鎖)
平成 23 年 6 月	十勝工場操業
平成 23 年 8 月	帯広工場閉鎖
平成 30 年 9 月	粗飼料分析センター閉鎖

北海道の酪農・畜産とともに 歩んできました。



■ 概 要

- 会社名
ホクレンくみあい飼料株式会社
- 本社所在地
札幌市中央区北4条西1丁目1番地
北農ビル18階
TEL (011)222-3301 (代表)
FAX (011)222-3304
- 工場
釧路西港・苫小牧・十勝
- 設立
昭和49年8月1日(合併)
- 資本金
15億2,700万円
- 従業員数(役員除く)
183名(令和3年4月1日現在)

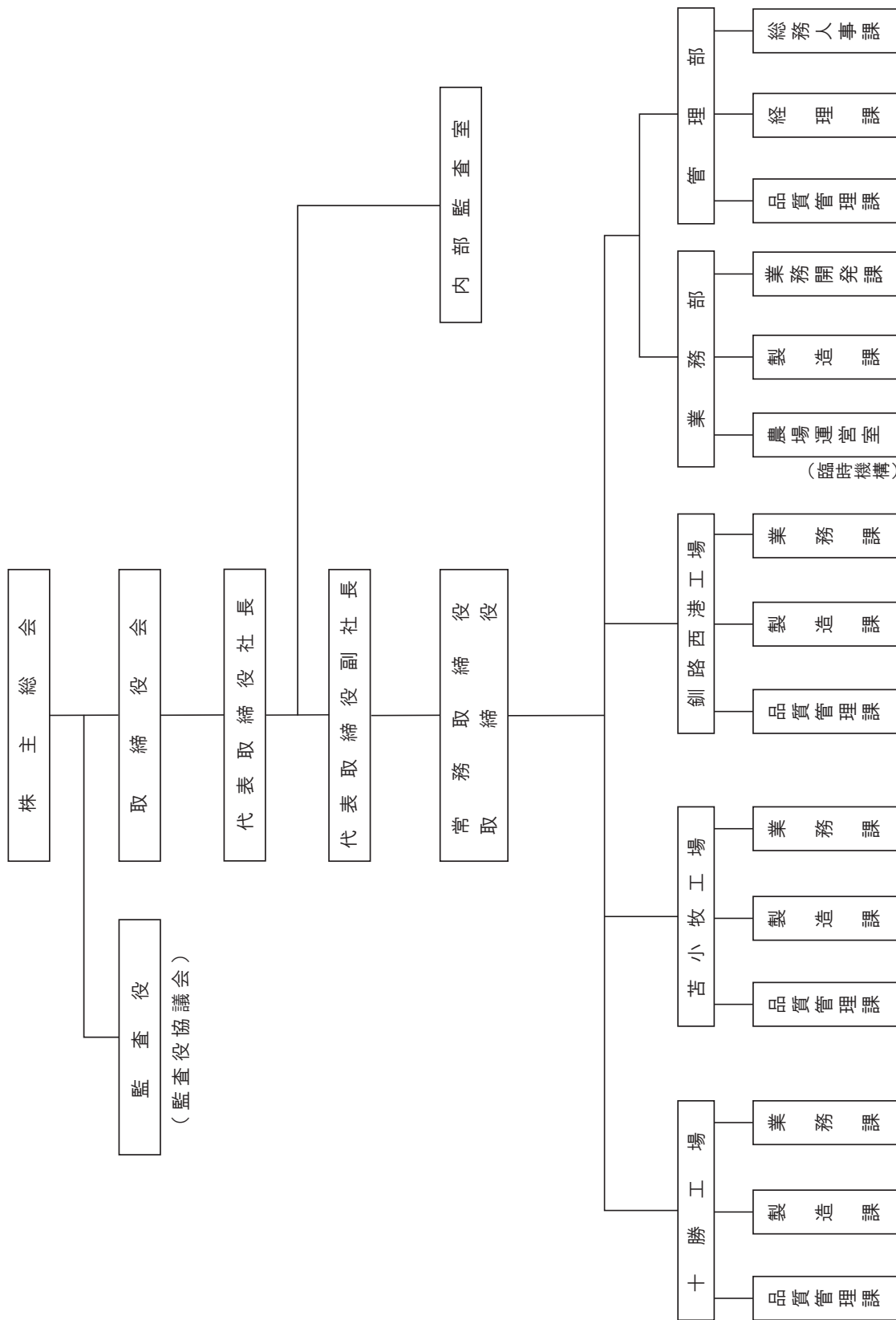


■ 沿 革

- 昭和42年7月 小樽くみあい飼料株式会社操業
- 昭和42年7月 釧路くみあい飼料株式会社操業
- 昭和43年12月 旭川くみあい飼料株式会社操業
- 昭和46年4月 苫小牧くみあい飼料株式会社操業(小樽閉鎖)
- 昭和49年8月 ホクレンくみあい飼料株式会社設立(3社合併)
- 昭和51年4月 帯広工場操業
- 昭和54年10月 北見工場操業
- 昭和59年10月 釧路西港工場操業(釧路工場閉鎖)
- 平成13年7月 旭川倉庫新設(旭川工場閉鎖)
- 平成17年4月 苫小牧工場 鶏・豚用工場操業
- 平成23年4月 粗飼料分析センター開設(北見工場閉鎖)
- 平成23年6月 十勝工場操業
- 平成23年8月 帯広工場閉鎖
- 平成30年9月 粗飼料分析センター閉鎖

組織図

ホクレンくみあい飼料株式会社
組織図（令和3年4月1日現在）



年間 86 万トンの安全・安心な 配合飼料を製造しています。

■ 全道主要拠点で稼動する飼料工場群

私たちの工場は、全道各地の需要エリアに効率よく製品をおとどけできるように、釧路、苫小牧、土幌の3つの主要拠点に配置されています。

ここで生産される製品は、年間 86 万トン（令和 2 年度実績）にのぼり、道内各地の酪農、畜産経営を支援しています。

工場では、原料や製品の物流、生産システムをコンピューター制御で管理し、原料の受け入れ、在庫の管理、製品の出荷など、自動化を最大限取り入れ、安全・安心・高品質の製品を効率良く製造しています。

■ 釧路西港工場

- 製造能力／月産・定時 16,000 トン（牛専用）
- 敷地面積／ 52,565 平方メートル
- 操業／昭和 59 年 10 月



■ 苫小牧工場

- 製造能力／月産・定時 12,000 トン（牛専用）
月産・定時 6,000 トン（鶏・豚専用）
- 敷地面積／ 59,207 平方メートル
- 操業／昭和 46 年 4 月（牛専用）
平成 17 年 4 月（鶏・豚専用）

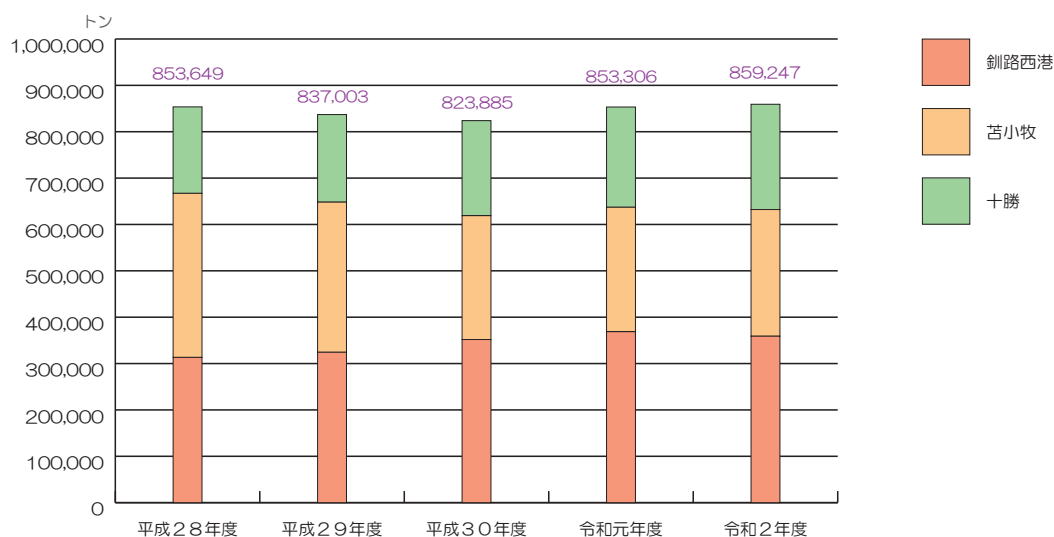


■ 十勝工場

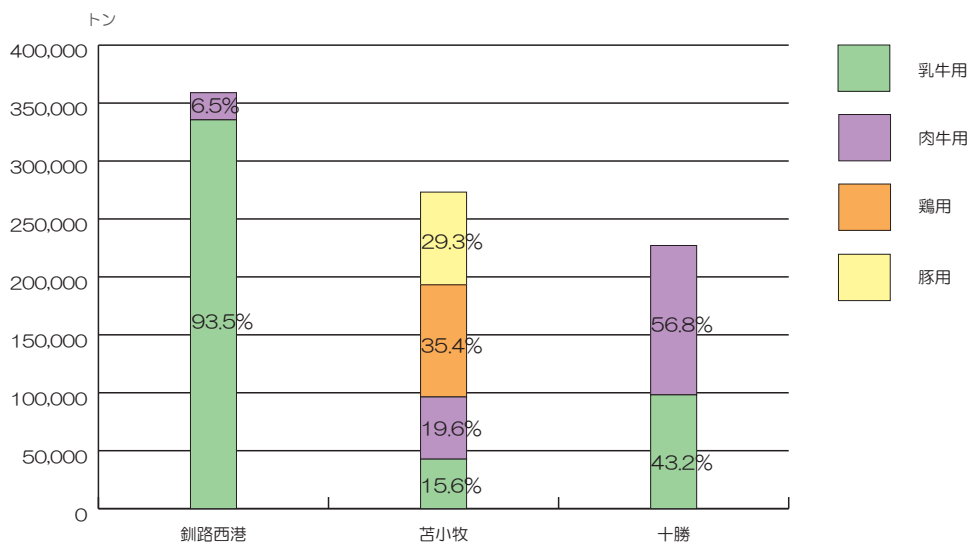
- 製造能力／月産・定時 8,000 トン（牛専用）
- 敷地面積／ 49,135 平方メートル
- 操業／平成 23 年 6 月



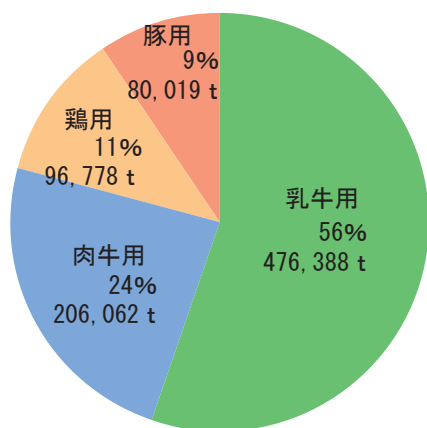
年度別・工場別 出荷数量



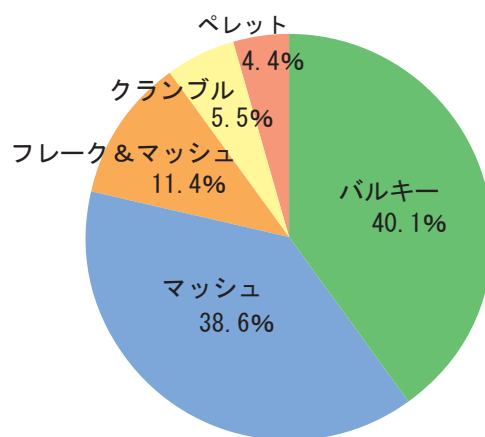
工場別 出荷数量 (令和2年4月～令和3年3月)



畜種別出荷実績 (令和2年度)



形態別出荷割合 (令和2年度)



主要な原料



とうもろこし



ふすま



大麦



ルーピン

原料の輸送システムも 飼料の安定供給に大きな役割を はたしています。

原料受入設備



原料はアメリカをはじめ世界各国の産地から大型穀物専用船により臨海穀物サイロに陸揚げ後、臨海工場へは直結のコンベアーで、内陸工場へは大型専用トレーラーで間断なく搬入されています。

内陸工場での専用車の受入は電動式トラックダンパーを採用し、CO₂削減による環境保全にも配慮されております。





バラ出荷棟



中央操作室

畜種別専用工場の整備

農林水産省は平成 15 年 9 月に牛用飼料への動物性たん白質の混入防止を目的として、牛用飼料の製造および保存について、製造工程等を分離して他の飼料との混入を防ぐことを義務付ける新ガイドラインを制定しました。

これを受けて、弊社は苫小牧工場敷地内に鶏豚専用工場を建設、当社の全鶏・豚用飼料をここで生産し、道内各地へと配送しています。製造工場を分けることにより、さらに安全な配合飼料の製造が可能になりました。

これからも飼料の安全性確保について追求してまいります。

常に高品質・安全・安心な 配合飼料づくりに努めています。

高品質を目指して

高い品質、そして安全な飼料づくりをめざし、最新の設備を導入。製品の品質と安全性の向上に向け、私たちは日々努力を続けております。

ユーザーからの多様なニーズにお応えできるよう、少量多品目化および専用銘柄など、製造・出荷体制の整備にも力を注いでまいります。



微量原料計量設備

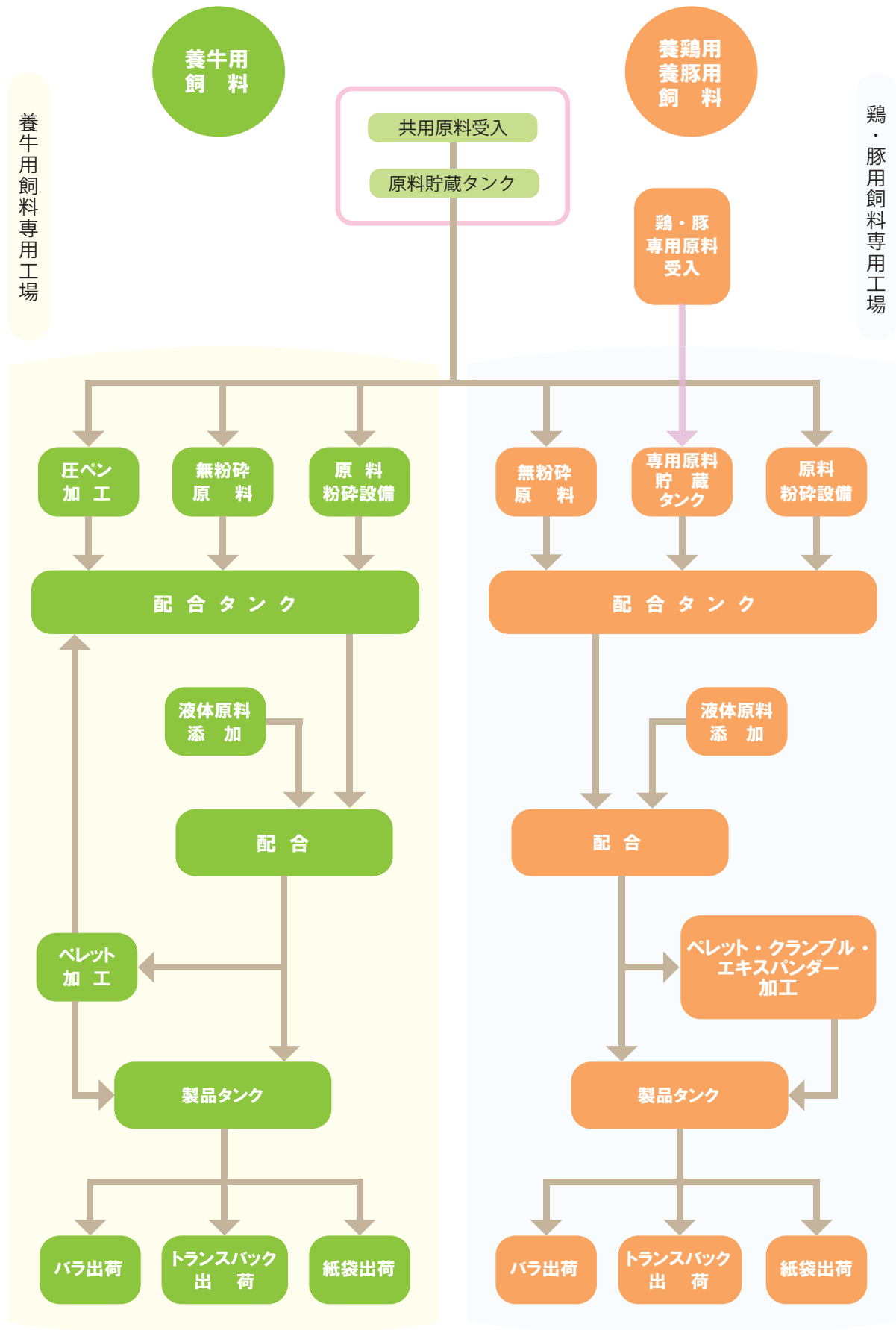


主配合混合設備（ツインバドルミキサー）



熱処理加工設備（エクスペンダー）

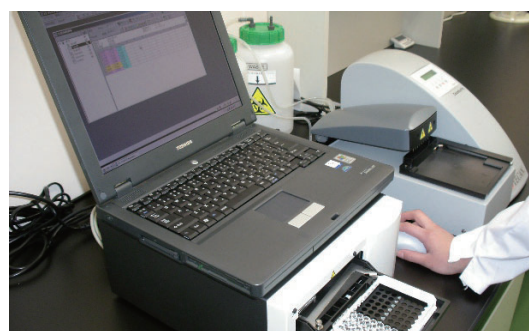
製造工程の概要



充実した品質管理体制

現代の食生活は、多彩な加工食品と多様化の一途をたどっております。「食の安全・安心」が消費者から求められ、畜産物の生産に欠かせない配合飼料にも食品と同じレベルの安全性と品質が要求されています。

これらの要求に応えるため、私たちはHACCP手法に基づいた衛生管理、ISO9001システムに基づいた品質管理体制を採用、さらに抗菌剤GMPガイドラインの認証も取得し安全性の高い高品質な配合飼料生産を実現しています。



HACCPとは

HACCPとは食品製造の一連の作業工程において、食品が健康に影響を及ぼす可能性のある危害を分析・予測（Hazard Analysis:HA）し、予測した危害を防止するために対応できる危害重要管理点（Critical Control Point:CCP）を設定し、それを監視する事によって事前に危害発生を防止する方法のことです。

分析システム

酪農経営安定向上のために、粗飼料分析を行ない、生産者の皆さまのご要望にすみやかに対応し、大切な飼料給与設計の一翼を担っております。

徹底した品質管理と技術力を柱に、 新たなる可能性に挑戦します。

安心していただける製品です。



乳牛用バルキー飼料



肉牛用バルキー飼料



養鶏用マッシュ飼料



養豚用ペレット飼料

(製品の一部を載せておりますが形態の違いを示したものです)

出荷システム

生産された良質の製品を、生産者の皆さまに安定的にお届けするための出荷システムも万全です。

出荷の主流を占めるのはバラ製品ですが、これはバルク車によって直接届けられます。

遠隔地へは主要拠点に中継基地を設け、大型トレーラーやトランスバックを使って大量に運ばれます。

小口出荷にも効率的かつ機動的に製造可能な自動コンテナ方式の設備を導入し、キメ細かな対応が図られています。

原料車両、製品車両ともに車両消毒装置により洗浄し、衛生面での安全性も万全です。

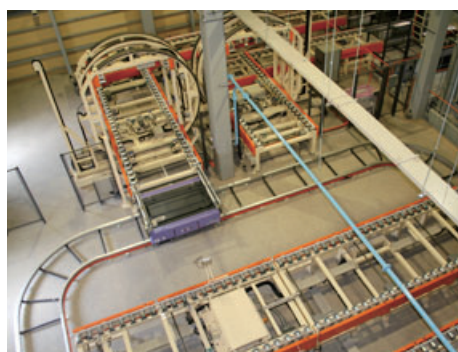
このように製造工程から出荷までの一環した合理性と安全性が生産者の皆さまから信頼をいただく大きな要因となっております。



車両消毒設備



バラ製品タンク出荷設備



コンテナ物流（反転機）設備



小口出荷設備

速やかに安定的にお届けできる
出荷体制が完備。